

第 1 号議案

2025年度 事業報告書 (2025年4月1日～2026年3月31日)

公益財団法人アサヒグループ財団

I. 事業の概況

今年度も、「人と社会の未来を展望し、主として食、生活及び環境にかかわる科学と文化の研究の助成支援を行い、もってこの分野における学術研究の発展と、国民の生活文化の向上に寄与する」との目的に基づき、研究助成活動を中心とする事業を実施した。

あわせて、芸術文化活動に対する助成支援を行うとともに、芸術文化資産を活用した創造の支援を目的として、アサヒグループ大山崎山荘美術館の運営等の文化事業を実施した。

1. 学術研究助成事業

2025年度の研究助成は、1ヶ月間の公募期間と各部門での選考委員会での選考と理事会での承認を経て15件1,600万円実施した。

現在、2026年10月開催予定の研究結果報告会に向け、目下研究結果の取りまとめが進められているところである。

【2025年度助成内訳】

件名		助 成		
		申請件数	助成件数	金額（千円）
学術研究助成	食・生活部門	54	8	8,500
	環境・サステナビリティ部門	45	7	7,500
	合 計	99	15	16,000

2026年度の研究助成は、昨年11月1日から11月30日までの1ヶ月間、財団Webサイトを通じて公募を実施し、本年2月に部門毎に開催した選考委員会で、申請書を基に研究内容について厳正に審査、選考を行った。

その結果、本年3月5日開催の第4回理事会の承認を経て、答申通り2026年度研究助成を決定した。

【2026年度助成内訳】

件名		助 成		
		申請件数	助成件数	金額（千円）
学術研究助成	食・生活部門	66	9	8,500
	環境・サステナビリティ部門	56	8	7,500
	合 計	122	17	16,000

2. 助成研究のサポート、社会発信

① 研究報告会（2024年度助成者を対象）

会場参加とWEB参加を併用したハイブリット開催とした。

10/29 環境・サステナビリティ部門（7名）

11/7 食・生活部門（8名）

・選考委員の他、理事、評議員、監事も参加し、熱心な質疑が行われた。

② 研究紀要の作成

2023年度の学術研究助成の研究結果報告を研究紀要としてまとめ、2025年9月より財団Webサイトにて公開している。

3. 顕彰事業

2022年度より再開した顕彰事業は、対象者（過去5年研究助成授与者92名）に対し募集要項を送付し、9月1日～30日の間で申請を募った。

結果4名の申請を受理した。

12月5日の選考委員会による選考で2名の候補者を選定、3月の理事会に答申し、2名の研究賞授賞者を決定した。

4. 芸術文化活動への助成

伝統工芸の技術の保存と活用、伝統文化向上に寄与する目的で開催されている公益社団法人日本工芸会の活動に対して500千円の助成を行った。

第72回日本伝統工芸展 東京会場開催（2025年9月3日～9月15日まで、日本橋三越本店）、並びに同会東日本支部が開催する「第65回東日本伝統工芸展」を中心とする公益目的事業の活動費として、支援金を活用している。

5. 美術作品の購入

棟方志功版画作品《華嚴譜》について、欠けていた「日の出の柵」を取得し、全23図が完備した。これにより、屏風作品としての文化的・美術的価値が向上したことから、本図を基本財産に組み入れた。あわせて、従来館蔵品として計上していた屏風仕立て費用についても、作品全体の一体管理の観点から基本財産へ資産区分を変更した。

加えて、基本財産台帳上の数量表記について、「屏風仕立2曲1隻が2点で1双」としていたものを、正しく「屏風仕立4曲1隻が2点で1双」と修正した。

6. 美術館運営部門

「事業の趣旨」

当財団は、1996年からアサヒビール社より、「アサヒビール大山崎山荘美術館」の運営を委託されており、これに伴い、美術館運営事業を行っている。なお、2022年より同館は、アサヒグループジャパン株式会社の所有となっている。

所蔵品・建物・自然環境という大山崎山荘美術館ならではの資源を活かし、広く芸術文化の拠点として、情報発信に努めている。

「事業の総括」

アサヒグループとしての一層の活用を目指して、2023年より館名を「アサヒグループ大山崎山荘美術館」へ変更している。館名変更に伴い、地元新聞（京都新聞）を中心に全面広告を出稿する等、露出の拡大を図り、本年度も継続している。一層の館名の周知を図っている。

コロナ禍で中断していた教育普及活動を本格的に再開した。インターンシップ研修として京都市立美術工芸高等学校（4名）、職場体験として立命館中学校（2名）、向日市立勝山中学校（2名）を受け入れた。また、大山崎町立小学校（2校、3～5年生対象）への出張授業プログラム（HOP!STEP!MUSEUM!）を実施し、京都新聞に取り上げられた。

広報活動強化の一環として、SNSに特化した情報発信を開始している。多くの経費投入はできず手の届く範囲での実施ではあるが、インスタグラムのフォロワー数上昇等、目に見える効果は出ている。従来アプローチができなかった新たな層への発信、来館者増に向けた効果的な広報活動に継続して取り組む。

JR京都駅においてデジタルサイネージ出稿を実施する等、新たな媒体を活用した広報活動も功を奏し、新たな顧客層へ美術館を周知することができた。

経営面では、各種費用が高騰している中、仕入れ業者からの値上げ要請、展覧会関連費用増加等、館運営のコストは増える一方となっている。安定した館運営に向け、変動制の入館料金設定へ移行している。また、喫茶部門もメニュー改定を実施し、適切な利益確保に努めた。

【企画展について】

時期	企画展の名称
2025/4/19～7/6	つながる民藝 縁ぐるり -山本爲三郎コレクションより-
2025/9/20～12/7	美術館で大航海！コレクションをたどって世界一周
2025/12/20～3/8	くらしに花咲くデザイン 大正イマジユリィの世界

◆企画展来館者状況 （※招待券等、無料来館者を含む）

	来館者数	目標来館者数		
つながる民藝展	15,667 人	18,780 人	達成率	83%
美術館で大航海！展	21,624 人	22,600 人	進捗率	96%
くらしに花咲くデザイン展	11,573 人	15,540 人	進捗率	74%

◆「つながる民藝 縁ぐるり -山本爲三郎コレクションより-」

期間 2025 年 4 月 19 日(土)～2025 年 7 月 6 日(日)

当館の所蔵品、特に陶器を中心としたコレクションを活用するため展覧会として、2024 年夏頃から企画を検討した。本展開催年の 2025 年は、「民藝」という言葉の誕生からちょうど 100 年の節目であり、各地の美術館でも民藝の展覧会が開催されているなかで、改めて山本爲三郎コレクションの存在を打ち出す絶好の機会であったため、民藝運動を展覧会のメインテーマに定めた。

本展の大きな特徴は、全体の章構成である。出品作家 9 名（濱田庄司、バーナード・リーチ、富本憲吉、芹沢銈介、棟方志功、河井寛次郎、黒田辰秋、青田五良、エセレ・メーレ）について、一人ずつ個別にみせるのではなく、連続的な 9 組のペア（＝章）を作り、ふたりのエピソードを交えて紹介した。展示スペースの制約上、それぞれの作家の作品点数を抑える必要があったものの、バラエティに富んだ各ペアのエピソードとともに作品を見せることで、じっくりと楽しめるような仕掛けを作れたのではないかと。

当初のメインターゲットとしては、民藝についてある程度の知識や関心のあるミドルからシニア世代を想定していたが、日歩の来館者やギャラリートークの参加者には比較的若い方の姿も珍しくなかった。来館者アンケートには、民藝運動に興味があった、といった声も見られ、予備知識の無い方にも楽しんで頂けたことは良かった。

山本爲三郎コレクションを、従来と異なる新たな切り口で展示していた点が新鮮かつ斬新であっ

た。単なる作品展示ではなく、作家同士の関係性に着目した点に、工夫のあとが見られた。

作家同士の友情、信頼関係、切磋琢磨しながらお互いを高め合う様子が作品や資料から読み取れ、観覧者の心を捉えたのではないかと。民藝ファンの掘り起こしに一役買った展覧会であった。

期間中の天候不安定、梅雨明けの猛暑の中、最後の週末(7月上旬)は一日400人の来館があり、期間中の来館者数は15,667人(目標比83%)、前年の同期比では130%となり、多くのお客様に来館いただいた。

◆「美術館で大航海！コレクションをたどって世界一周」

期間 2025年9月20日(土)～2025年12月7日(日)

世界各国のコレクション(絵画、陶器、彫刻)をエリア別に展示し、船に乗って世界旅行をしている気分が味わえる展覧会であった。大阪万博の開催時期、テーマとも重なり、大人も子供も楽しめる企画であった。

夏場に入れ替えた展示ケースと照明により、従前より明るく見やすい展示であった。また、京都府から提供されたモニターで蘭花譜映像を流すなど、現有資産を最大限に有効活用した展覧会と言える。

期間中の来館者数は21,624人(目標対比96%)の着地。閉幕3日前には2万人達成セレモニーを実施でき、広報発信につなげることができた。高い目標を掲げ、達成するためにスタッフ全員が知恵を絞った結果であり、大健闘と評価する。

◆「くらしに花咲くデザイン 大正イマジユリイの世界」

期間 2025年12月20日(土)～2026年3月8日(日)

2010年以来、15年間続く巡回展、当館が18館目。

大正時代のイマジユリイ(イメージ図像)、印刷物や版画を展示する巡回展、関西では初開催。

「イマジユリイ」は、イメージ図像を意味するフランス語。本展では、本や雑誌の挿画、装幀、絵はがき、ポスターなど大衆的な印刷物や版画の総称としてこの言葉を用いている。

大衆文化が隆盛した大正時代には、印刷技術の革新を背景に出版文化が発展した。藤島武二、橋口五葉、竹久夢二ら当時新しい表現方法を模索していた画家たちも、f同時代の美術界の動向と並走しながら、独自の表現を次々に生み出した。こうした動きの中で、やがて杉浦非水をはじめとする多くのグラフィックデザイナーが、モダンデザインに大きな影響を及ぼした。

大正時代に発展した印刷技術を背景に、イマジユリイ(イラストレーション、イメージ図像)、印刷物や版画を展示。大衆文化の隆盛が見られ、同時代に建てられた山荘の雰囲気とも合い、華やかな雰囲気を演出した企画であった。期間中の来館者数は11,573人(目標比74%)。閉幕の5日前(3/3)に1万人達成セレモニーを実施した。

◆30周年記念展「クロード・モネ展」

期間 2026年3月20日(金)～2027年4月11日(日)

◆「共鳴 河井寛次郎×濱田庄司展」

期間 2026年3月20日(金)～2026年9月6日(日)

2企画が同時開幕した。初日は1千人を超える来館であり、3連休明けの平日も500人の来館が続く盛況を維持している。過去20年で最速1万人達成の勢が続いている。

3月20日(金)から3月31日(火)までに7,849人の来館があった。

Ⅱ. 2025年度 主な事業活動

2025年度(2025年4月1日～2026年3月31日)

年	月	日	項目	摘要
2025	4	16	研究助成授与式 研究賞授賞式	アサヒ本社ビル 19 階会議室 ・2025 年度助成先研究者を対象に開催 ・2025 年度受賞者を対象に開催
	4	19	大山崎山荘美術館 春企画展	つながる民藝 縁ぐるり -山本爲三郎コレクションより-(～7/6)
	5	30	第1回理事会	・2024年度事業報告及び計算書類等の承認の件 ・評議員会に上程する「アサヒグループ財団 定款」の一部改訂の承認の件 ・理事候補者の承認の件 ・評議員候補者の承認の件 ・定時評議員会の招集の件
	6	18	定時評議員会	・2024年度事業報告及び計算書類等の承認の件 ・「アサヒグループ財団 定款」の一部改定の承認の件 ・理事の選任の件 ・評議員の選任の件
	6	18	第2回理事会(書面開催)	・代表理事 理事長 選定の件 ・定款変更に伴う副理事長及び常務理事選定の件
	7	7	大山崎山荘美術館 夏期休館	30周年にむけ館内修繕、設備投資実施 (～9/19)
	9	2	2023年度「研究紀要」	財団 HP にも掲載(10/31～)
	9	1	2026年度研究賞申請	募集期間:9/1～9/30
	9	20	大山崎山荘美術館 秋企画展	美術館で大航海！コレクションをたどって世界一周(～12/7)
	10	29	研究結果報告会	環境・サステナビリティ部門
	11	7	研究結果報告会	食・生活部門
	11	1	2026年度助成公募開始	募集期間:11/1～12/2
	12	15	第3回理事会(書面開催)	・棟方志功版画作品《華嚴譜》「日の出の柵」購入と基本財産組入れの件 ・上記屏風仕立て費用の資産区分変更の件 ・事務局長就任の件
	12	13	顕彰選考委員会	2026 年度研究賞
	12	20	大山崎山荘美術館 冬企画展	くらしに花咲くデザイン 大正イマジュリィ (～3/8)
2026	2	4	助成選考委員会	食・生活部門
	2	12	助成選考委員会	環境・サステナビリティ部門
	3	5	第4回理事会	・2026年度事業報告及び計算書類等の承認の

				件 ・2026年度助成・選考委員会答申書の承認の件 ・2026年度アサヒグループ研究賞(顕彰)・選考委員会の答申書の承認の件 ・「公益充実資金等取扱規程」の制定の承認の件
	3	20	大山崎山荘美術館 特別企画展	没後100年クロード・モネ展 (～2027/4/11)
	3	20	大山崎山荘美術館 春企画展	共鳴 河井寛次郎×濱田庄司 山本爲三郎コレク ションより(～9/6)

Ⅲ. 処務の概要

1. 役員等に関する事項

理事の異動

2025年6月18日

新任 小路 明善

評議員の異動

2025年6月18日

退任 加賀屋 睦
新任 藤崎 孝志

2025年度末の現職役員、評議員及び選考委員は次の通り

役職名	氏名	担当職務	主な職業
代表理事 理事長	小路 明善	本法人代表	アサヒグループホールディングス(株)会長
代表理事 副理事長	西中 直子	本法人代表	アサヒグループホールディングス(株)執行役
常務理事	崎田 淳也	業務全般	財団常勤
理事	木下 直之		静岡県立美術館館長
同	建畠 哲		京都芸術センター館長・美術評論家
同	植松 光夫		埼玉県環境科学国際センター総長
同	佐藤 隆一郎		東京大学大学院特任教授
同	伏木 享		甲子園大学栄養学部特任教授
同	國賀 由美子		公益財団法人古代学協会客員研究員
同	小川 順		京都大学大学院農学研究科教授
同	竹山 春子		早稲田大学理工学術院教授
監事	松田 隆次		弁護士
同	飯塚 昇		公認会計士
評議員	奥 正之		(株)三井住友フィナンシャルグループ名誉顧問
同	村上 仁志		三井住友信託銀行(株)名誉顧問
同	高嶋 達佳		(株)電通相談役

同	大林 剛郎	(株)大林組取締役会長兼取締役会議長
同	原島 俊	大阪大学名誉教授・崇城大学名誉教授
同	石井 克枝	千葉大学名誉教授
同	清水 二郎	アサヒビール(株)執行役員
同	海鋒 宏之	アサヒグループジャパン(株)常務執行役員
同	藤崎 孝志	アサヒグループジャパン(株)執行役員
選考委員	内田 浩二	東京大学大学院特任教授
同	橋本 渉	京都大学大学院教授
同	福留 奈美	東京聖栄大学教授
同	永富 康司	アサヒクオリティアンドイノベーションズ(株)社長
同	尾崎 一隆	アサヒグループジャパン(株)理事
同	妹尾 啓史	東京大学大学院特任教授
同	窪川 かおる	帝京大学先端総合研究機構 客員教授
同	伊坪 徳宏	早稲田大学教授
同	宮下 直	東京大学大学院教授
同	安原 貴臣	アサヒクオリティアンドイノベーションズ(株)

2. 職員に関する事項

本部 恵子 2026年1月1日 事務局長就任

3. 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開会年月日	議事々項	会議の結果
2025-05-30	第1回理事会 ・2024年度事業報告書及び計算書類等の承認の件 ・評議員会に上程する「アサヒグループ財団 定款」の一部改定の承認の件 ・理事候補者の承認の件 ・評議員候補者の承認の件 ・定時評議員会の招集の件	原案通り承認 原案通り承認 原案通り承認 原案通り承認 原案通り承認 原案通り承認
2025-05-30	第2回理事会（書面） ・代表理事 理事長 選定の件 ・定款変更に伴う副理事長及び常務理事選定の件	原案通り承認 原案通り承認
2025-12-15	第3回理事会（書面） ・棟方志功版画作品《華厳譜》「日の出の柵」購入と基本財産組入れの件 ・棟方志功版画作品《華厳譜》屏風仕立て費用の資産区分変更の件 ・事務局長就任の件	原案通り承認 原案通り承認 原案通り承認
2026-3-5	第4回理事会 ・2026年度事業計画書及び収支予算書等承認の件 ・2026年度助成・選考委員会答申書の承認の件 ・2026年度アサヒグループ研究賞・選考委員会答申書の承認の件	原案通り承認 原案通り承認 原案通り承認

	・ 2026年度アサヒグループ研究賞（顕彰）・選考委員会の 答申書承認の件	原案通り承認
	・ 「公益充実資金等取扱規程」の制定の承認の件	原案通り承認

(2) 評議員会

開会年月日	議事々項	会議の結果
2025-06-18	定時評議員会 ・ 2025年度事業報告書の報告及び計算書類等の承認の件 ・ 「アサヒグループ財団 定款」の一部改定の承認の件 ・ 理事の選任の件 ・ 評議員の選任の件	原案通り承認 原案通り承認 原案通り承認 原案通り承認

4. 許可、認可及び承認に関する事項

該当事項なし

5. 契約に関する事項

該当事項なし

6. 寄付に関する事項

寄付の目的	寄付者	申込金額	領収金額	受入年月日
財団運営資金	アサヒグループジャ パン株式会社	192,000,000 円	102,000,000 円	2025-04-30
			50,000,000 円	2025-07-01
			40,000,000 円	2025-08-29
2025年度寄付金総額		192,000,000 円	192,000,000 円	

7. 法人運営体制の充実に係る取組

当年度は、定款・関係法令及び諸規程に則り、適正な法人運営を確保するため、理事会・評議員会等の会議体運営の適切化、監事監査及び外部専門家との連携による会計・コンプライアンス面の点検、ならびに事業報告書等の作成を含む記録・文書管理の整備に取り組んだ。今後も、行政庁の動向や他法人の取組事例等も参考にしつつ、必要な見直しを行い、運営体制の一層の充実を図る。

8. その他重要事項

該当事項なし

附 属 明 細 書

2025年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は存在しないため、作成せず。

2026年5月26日
公益財団法人アサヒグループ財団
以上